

**「姫路市子ども読書活動推進計画（第5次）」（案）に関する  
市民意見（パブリック・コメント）の募集結果について**

1 市民意見の提出状況

- (1) 募集期間：令和7年12月17日（水）～令和8年1月16日（金）
- (2) 意見件数：13通32件

2 意見件数の内訳

項 目	件 数
<b>第2章 第4次計画における取組状況</b>	
3 幼稚園・保育所・こども園・学校における取組状況	1件
<b>第3章 第5次計画の基本的な考え方</b>	
「1 基本目標」 「2 基本方針」	2件
<b>第4章 第5次計画推進のための施策</b>	
全般に関すること	3件
1 家庭・地域における読書活動の推進	9件 (うち修正2件)
2 図書館における読書活動の推進	4件
3 学校・園等における読書活動の推進	8件
4 推進活動の整備と啓発・広報の推進	2件
その他	3件
合 計	32件

※ご意見が複数の項目にまたがる内容の場合は、主な内容が含まれる項目に件数を計上しています。

3 意見により修正した項目：2件

4 提出された市民意見とそれに対する市の考え方

番号	提出された市民意見(要旨)	市の考え方	該当頁
<b>修正した項目</b>			
<b>第4章 第5次計画推進のための施策</b>			
1 家庭・地域における読書活動の推進			
1	公民館に子ども向けの本を置いて紙の本に触れ合う機会を増やす等の対策が必要である。	公民館では、子どもたちがより良い本に出会い、本を読むことを楽しめるよう、各種団体と連携し読み聞かせ等の講座の充実に努めてまいります。 ご意見をもとに、図書コーナーを活用し、子ども向け講座等の充実に努めることとする	14 17～18

		ため、「第3章 3施策の体系」及び「第4章 1 (2)公民館」「計画5」を「5 図書コーナーの活用」に修正します。	
2	図書館が近くにない公民館等で実施している「子育てサロン」の場で幼児に読み聞かせを行う機会をつくるのも一案であると思う。	星の子館・各児童センター及びすこやかセンター3階子育て支援施設では、「おはなし会」「絵本の読み聞かせ」「子育て講演会」などのイベントを実施し、親子がともに読書に親しめる機会を設けております。今後も、各種イベントに絵本の読み聞かせを取り入れるなど、子どもや保護者に本の魅力、読書の楽しさを伝えられるよう努めてまいります。また、児童館・児童センターが未設置校区の公民館等へは、移動児童センターが巡回し、同様に絵本の読み聞かせなどを行っております。 現状の記述内容を補足するため、「第4章 1 (5)星の子館・児童センター・児童館」の項に、実施している内容を追記します。	17～21
<b>参考とした項目</b>			
<b>第2章 第4次計画における取組状況</b>			
幼稚園・保育園・こども園における取組状況について			
3	公立園・保育所についてはデータが記されているが、私立園の現状はどうなっているのか。	私立園の現状については、第5次計画の策定にあたり、令和7年度より数値データをいただいております。私立園も含めた数値を目標値としています。	8 27
<b>第3章 第5次計画についての基本的な考え方</b>			
「1 基本目標」「2 基本方針」			
4	図書館だけでなく、いろいろな公共施設に子どものための本が置かれていて利用できることは素晴らしい。	本市の第1次計画より、図書館、学校・園だけではなく、公民館・児童センターなど子どもの身近にある施設とも連携し、読書活動を推進してまいりました。様々な場所と機会において子どもたちが本に触れられるような環境を目指します。	4 12
5	年代別の取組について更に充実が必要である。	この計画では、学校・園、図書館、地域の施設等、それぞれの発達段階に関わる機関が、その専門性や特性を生かし、子どもの年代に応じた取組を行ってまいります。	13

第4章 第5次計画推進のための施策			
全般に関すること			
6	絵本から本格的な読書までにはいくつかの段階があり、その橋渡しがうまくいっていないから子どもの読書量が増えない。子どもたちの近くにいる大人が手助けすることが大事だが、本を手渡す側の大人にも知識が必要である。	ご指摘の通り、子どもが本格的な読書をするようになるまでには大人の手助けが必要であり、子どもに接する大人への働きかけも必要となります。 今後も図書館や学校園では、研修の機会を絶やすことなく、子どもの読書に関する専門的な知識や技術に習熟した職員の育成に努めてまいります。加えて、その他の関係機関、連携施設においても、保護者や子どもに関わる大人を対象に啓発を行ってまいります。	23～31
7	先生・親に対して読書の大切さを気付いてもらうための働きかけが必要である。		
8	大人もケータイやテレビでの情報収集や自分のことに必死なのに、子どもに読み聞かせをする余裕があるのか。読むことがいかに大切かを理解する必要がある。分かっているもなかなかできないのだから、ボランティアや子供会などでイベントをして欲しい。	大人への啓発は必要だと考えており、読書の大切さについて、様々な機会を通して啓発を行ってまいります。また、ご家庭では読み聞かせをすることが難しい方に向け、地域の様々な場所で支援を行ってまいります。 図書館各館でのおはなし会など様々なイベントや、学校でのボランティアによる読み聞かせやストーリーテリング、地域の公民館や児童センター・児童館での読み聞かせのイベントなどを実施しております。 子供会への情報提供につきましては、関係機関を通じ、行ってまいります。	4～5 17～18 20 21 28～29
1 家庭・地域における読書活動の推進			
9	小さい頃よく本を読んでいたが、母親からの読書に対する否定的な言葉により読まなくなってしまった。家庭での読書への理解や子どもへの関わり方が大事ではないか。	この度のアンケートの結果から、小学生では特に家庭での影響を受けやすいことがわかります。また本の楽しみを家族で共有することは心豊かな体験となります。 本市では、子どもに関わる各関係機関がそれぞれの機会を通して家庭への啓発を行うことにより、子どもの成長段階を通じ継続して読書の重要性を発信してまいります。	11 17 41
10	読書習慣は幼いころからの積み重ねが必要だと思うので、親への啓発を長く続けてもらいたい。		
11	ファーストブック(ブックスタート)事業としての赤ちゃんへの本の配布が令和6年	保健所で実施しておりました絵本の配布は令和6年度をもって終了いたしました。絵	4 18～19

	度までで終了している。継続した予算の対応をして欲しい。	本と触れ合う機会は非常に重要と考えております。 絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちが本に親しむ環境づくりに努めてまいります。	
12	保健所の健診で絵本を貰ったが既に同じ本を持っていた。せっきやく配布するのであれば数冊から選べるようにする、若しくは図書カードを配布するようにしてほしい。	ブックスタート事業での絵本の配布については、令和6年度をもって終了しましたが、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。	4 18～19
13	たくさんの人、特にお母さんに対する働きかけとして、保健所での健診時の絵本の紹介がよい。	保健所では健診や相談の場において、保護者への読書活動の啓発に取り組んでまいります。	
14	放課後児童クラブの計画にリサイクル本を活用とあるが、古いと読む意欲が失せることもあるので、新規購入をしてもらいたい。	リサイクル本だけでなく、放課後児童クラブの希望を聞き、希望にできるだけ沿う形で、新規図書の購入をしております。	19
15	放課後児童クラブの図書購入費を増額してほしい。	今後も、図書を購入できるように引き続き予算確保に努めてまいります。	
2 図書館における読書活動の推進			
16	図書館を利用する小中学生が少なくなっていると感じる。図書館の新刊図書を増やす等の取組が必要である。	本市の児童人口は減少しておりますが、児童人口1人当たりの貸出冊数や子ども向け行事参加者数は増加しております。 本計画では0歳から18歳までの登録率増加を目標の一つとし、子どもにとって魅力のある図書館となるよう、図書の充実等を計画に記載しております。	23～24
17	紙の本の良いところと電子書籍の良いところを組み合わせたい。	令和5年から貸出を開始している電子書籍は利便性に優れている一方で、紙書籍は電子書籍より集中しやすく記憶にも残りやすいなど、優れた点が多くあります。 電子書籍の充実、学校利用を含めたサービスの促進とともに、従来の紙書籍ならではの読書体験や探究学習の支援に努めてまいります。	24
18	図書館の推薦する本の紹介など、多くの児童の保護者が目にする機会の多いSNSなどで、もっと頻繁に紹介するのが良いと思う。	図書館作成の学年別推薦図書リストは、学校を通じて新年度に児童・生徒に配布し、図書館のホームページでも公開しております。	24～25 30～31

		今後は SNS 等の活用も検討してまいります。	
19	図書館の計画に子どもに本を選定してもらおうとあるが、いかがなものか疑問である。	年齢が高くなるにつれて不読率が上がる傾向が見られ、また、この度のアンケートの結果からも、中学生では大人からよりも同世代から薦められる方が読書のきっかけになっている結果が得られました。子どもの意見を取り入れることも重要であると考え、図書館では、小学4年生から6年生・中学生・高校生を対象に子ども選書会議の実施を計画しております。	24～25 43
3 学校・園等における読書活動の推進			
20	学校図書館の充実には、気持ちの良い空間、書架の見やすさ等、環境を整えることが急務だと考える。	いただいたご意見を参考に、引き続き、学校図書館の改修を実施し、その充実に取り組んでまいります。	27～28
21	学校図書館の本の質の向上	ご指摘の点について、児童生徒がより良い本と出合えるよう、毎年、学校司書の配置前研修として、選書や廃棄について図書館司書から学ぶ機会を設けるとともに、蔵書の計画的な更新についても研修しております。また、年に数回、学校司書を対象に読書活動をはじめとする学校図書館を活用した学習支援について研修を行っております。今後も児童生徒が、より良質な本と出会えるよう努力してまいります。	27～28
22	基本目標の「すべての子どもが本に親しみ、心豊かに成長できるまち」を目指すのは素晴らしい。そのためにも、全ての小中学校に学校司書を配置して、子どもたちに読書の機会を提供してほしい。 子どもの本の知識を持っている人が学校司書になれば、近道になる。ボランティア活動と学校司書が両立できればもっと学校司書が増えるのではないか。	本市では、常勤ではありませんが、全小中学校に学校司書を配置しております。引き続き、学級担任や学校司書とボランティアによる読み聞かせや、ストーリーテリング、ブックトークなど、学齢に応じた良質な読書体験が提供できるよう、取り組んでまいります。	27～28
23	「学校・園等における読書活動の推進」について、小学校の図書館の充実以外に子どもの本離れを止める道はない。	ご指摘の点について、市内の学校すべてに司書を配置しておりますが、兼務での配置であることについては課題であると認識し	27～28

	何よりも大切なのは、子ども達に本の魅力を伝え、手渡す人の存在である。各校に常任の図書室司書を置き、彼らの待遇改善を図ってほしい。	ております。現在の状況を改善するべく学校司書の待遇改善について今後も取り組んでまいります。	
24	学校司書の1校1人専任、状況改善を望む。		
25	小中学生の不読対策には、学校図書室を活性化させることが必要である。そのためにも司書の専任化を望む。		
26	学校での司書の充実		
27	市立小・中学校で、月曜日から金曜日まで毎日学校司書が図書室に在室しているようにしてほしい。		
4 推進体制の整備と啓発・広報の推進			
28	子ども読書の日等のイベントの周知	イベントの情報発信については、関連施設がそれぞれ「広報ひめじ」や市のホームページ、X、LINE、機関紙などにより、周知に努めてまいります。	30～31
29	図書館の行事やイベントを学校図書室に掲示すれば周知が広まるのではないか。	児童・生徒向けの図書館行事につきましては、ポスターやチラシを学校にも配布しております。校内での掲示場所等の検討にあたり、ご意見を参考にさせていただきます。	30～31
その他			
30	図書館の開館時間が遅く、閉館時間が早い。他市では8時から20時まで開館している図書館があり、通学・通勤前後に図書館に寄ることができる。	いただいたご意見は今後の図書館の運営について検討する中で、参考にさせていただきます。	—
31	「図書館＝静かにしなければならない場所」ではなく、友人同士で楽しくおしゃべりしても良い雰囲気にしてはどうか。	静かな環境で利用したい方とのスペースを分ける必要がありますので、現状ではスペースの確保が困難ですが、今後、図書館のリニューアル時にはご意見を参考にさせていただきます。	—
32	図書館では図書を6冊しか借りられない。調べ物の関連図書を選ぶと10冊程度になる。上限冊数を増やしてほしい。	マイナンバーカードの貸出券登録をいただくと、12冊まで貸出可能ですのでご利用ください。	—